

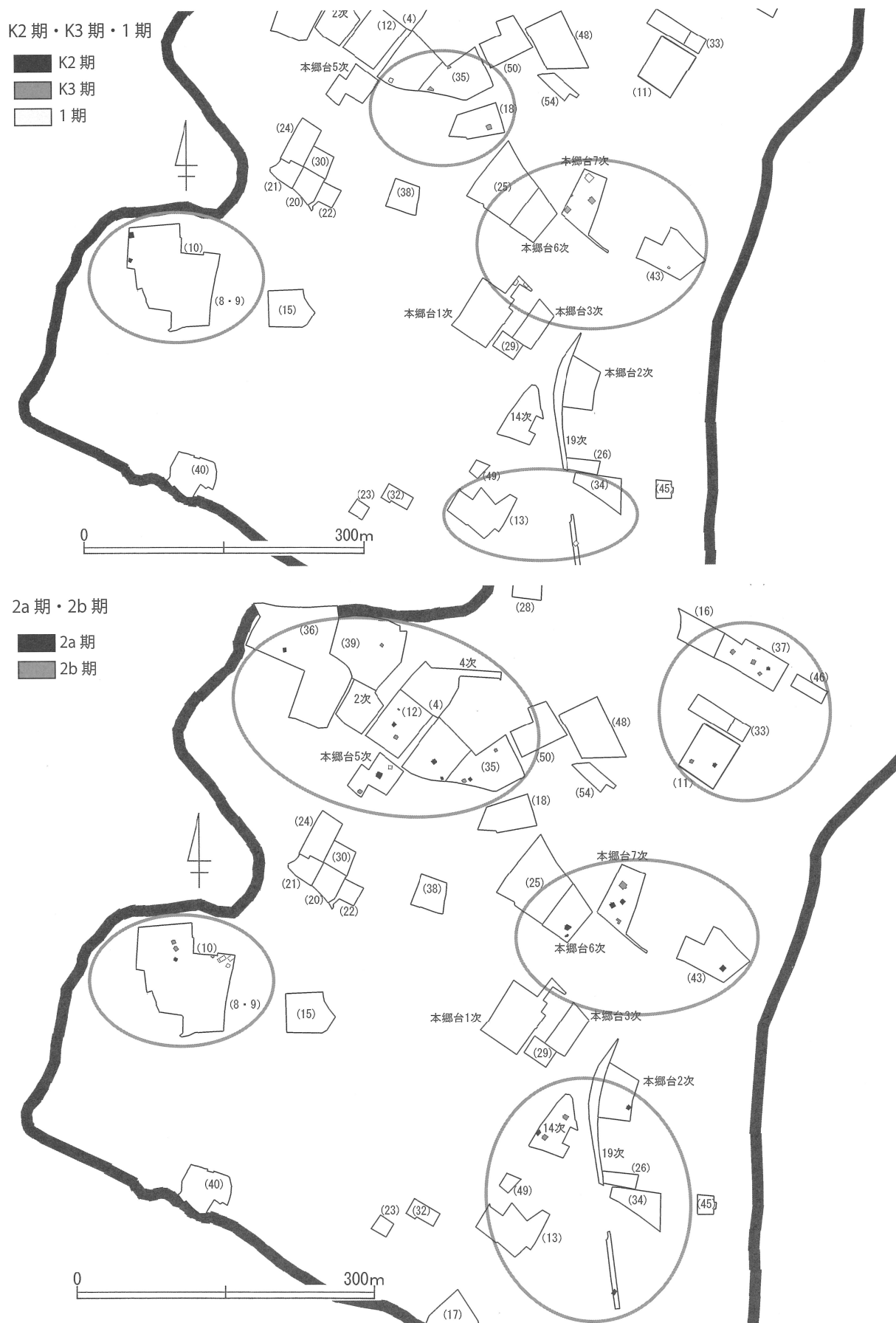


図 28-1 東中山台遺跡群の遺構変遷図 (1)

えんめんけん 円面硯、はじきつきぶた はせつかべ おおたべ 印内産土師器杯蓋、「丈部」「大田部」など集団の氏名を刻む線刻砥石、錢貨（わどうかいちん 和同開珎・ふじゆしんぼう 富寿神寶・りゅうへいえいほう 隆平永寶）、うるしがみもんじょ おびかなぐ 漆紙文書、帯金具等がある（図 30）。

集落の変遷（図 31）

K1 期（6 世紀後葉） 7 次地点で竪穴建物跡が 1 棟確認されている。

K2 期（7 世紀前葉） 印内台遺跡群南西部に集中して、15 棟が確認されている。東中山台遺跡群とは異なり、印内台遺跡群ではこの時期の竪穴建物棟数は比較的多い。

K3 期（7 世紀中葉） 西部から南部にかけて 23 棟が検出されている。7 次・19 次地点では鉄鍛冶関連工房跡が出現する。特に 19 次地点では一辺 8 m 前後の大型の工房跡が作られる。K2 期に引き続き、住居の棟数は増加し、本時期は 7 世紀代のピークを示す。この時期の住居が少ない東中山台遺跡群とは対照的である。

1 期（7 世紀後葉） 竪穴建物は南部に集中し、11 棟を確認した。

2a 期（7 世紀末葉～8 世紀初頭） 竪穴建物の棟数が 35 棟に急増した。また竪穴建物の分布が遺跡群全体に拡大する。特に西部および南部の核になる地点には集中して竪穴建物を作られている。この時期に棟数が急増する傾向は、東中山台遺跡群とも共通する。西部の 32 次地点では張り出しのある大型竪

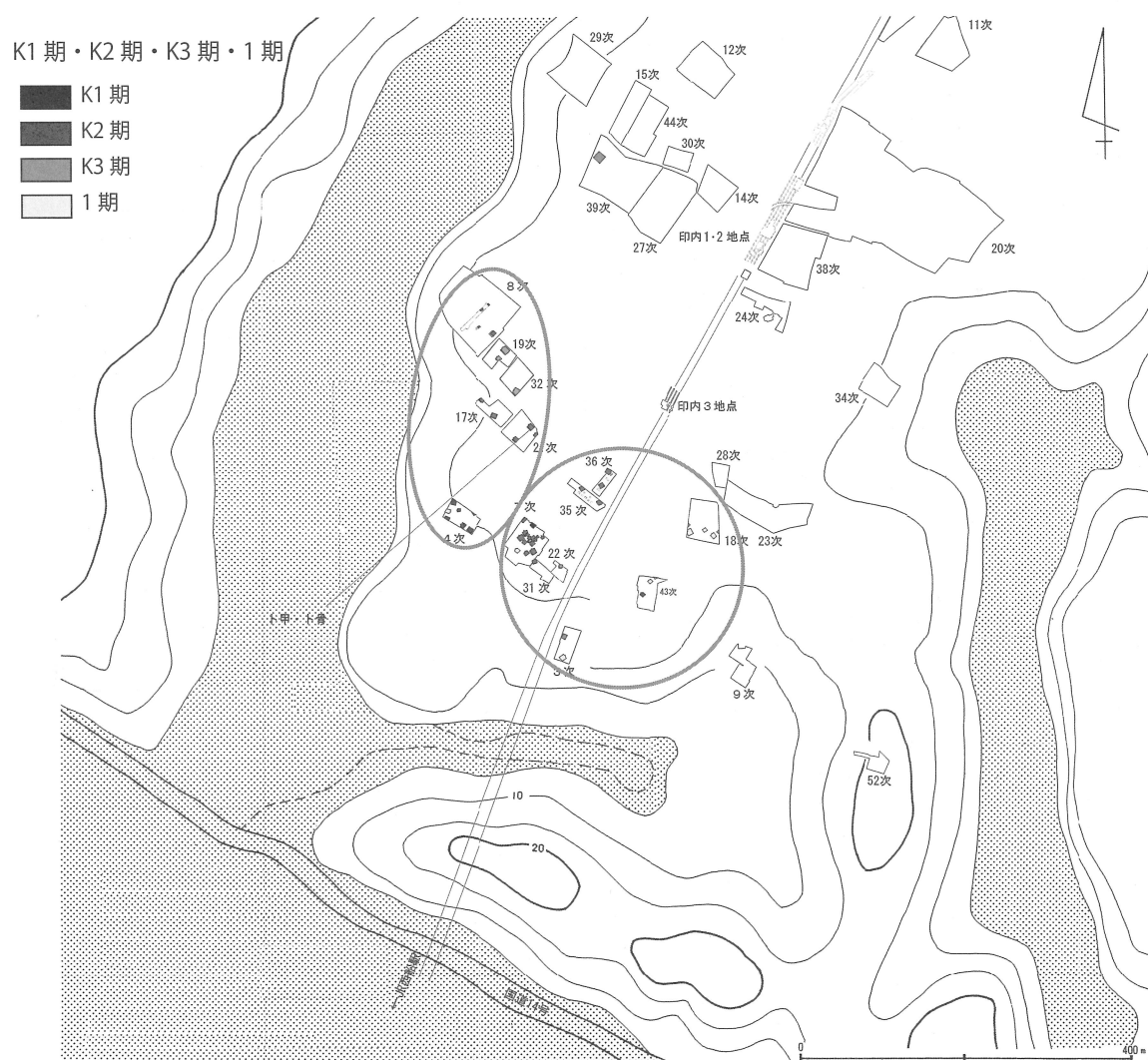


図 31-1 印内台遺跡群の遺構変遷図 (1)

2 各地の遺跡

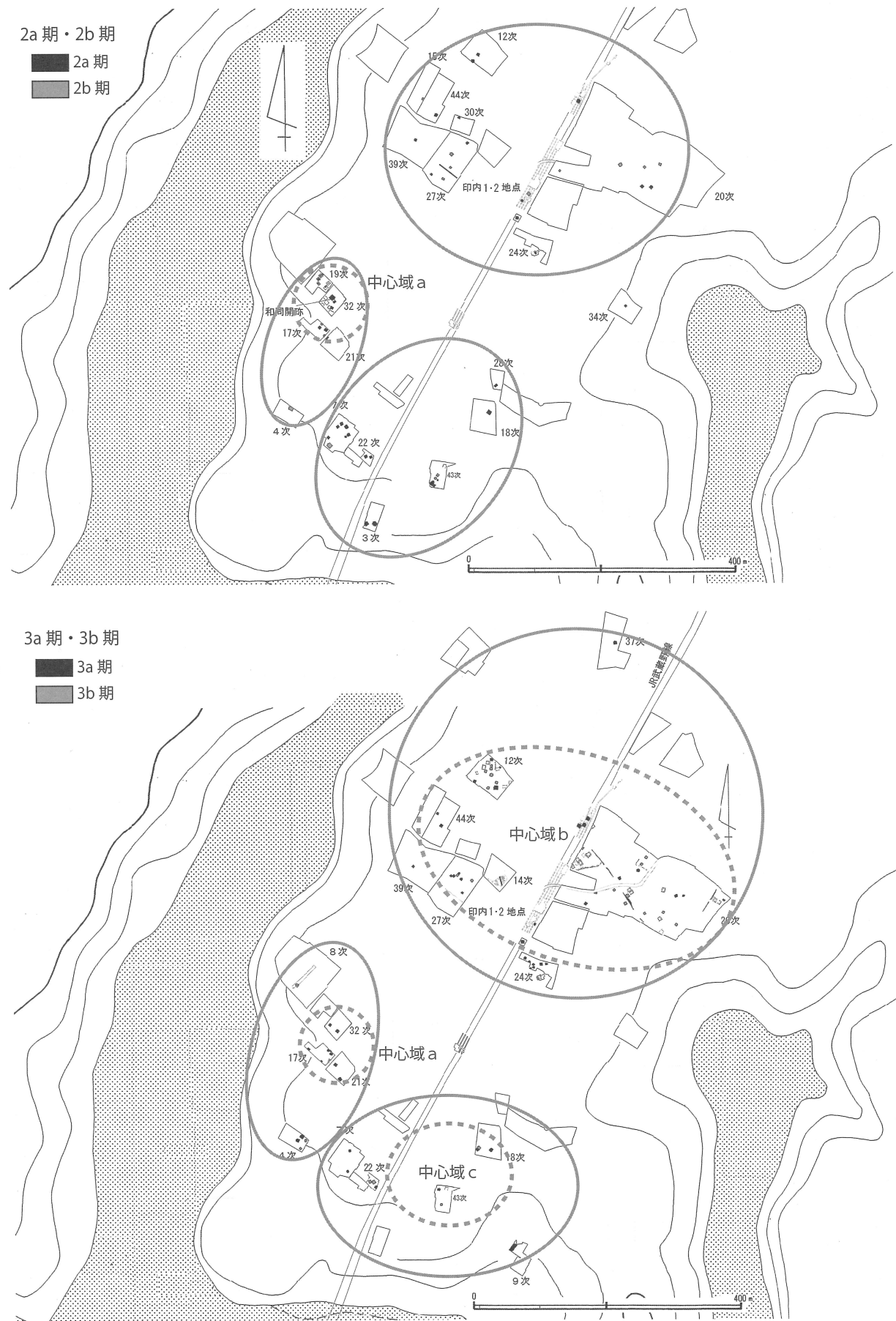
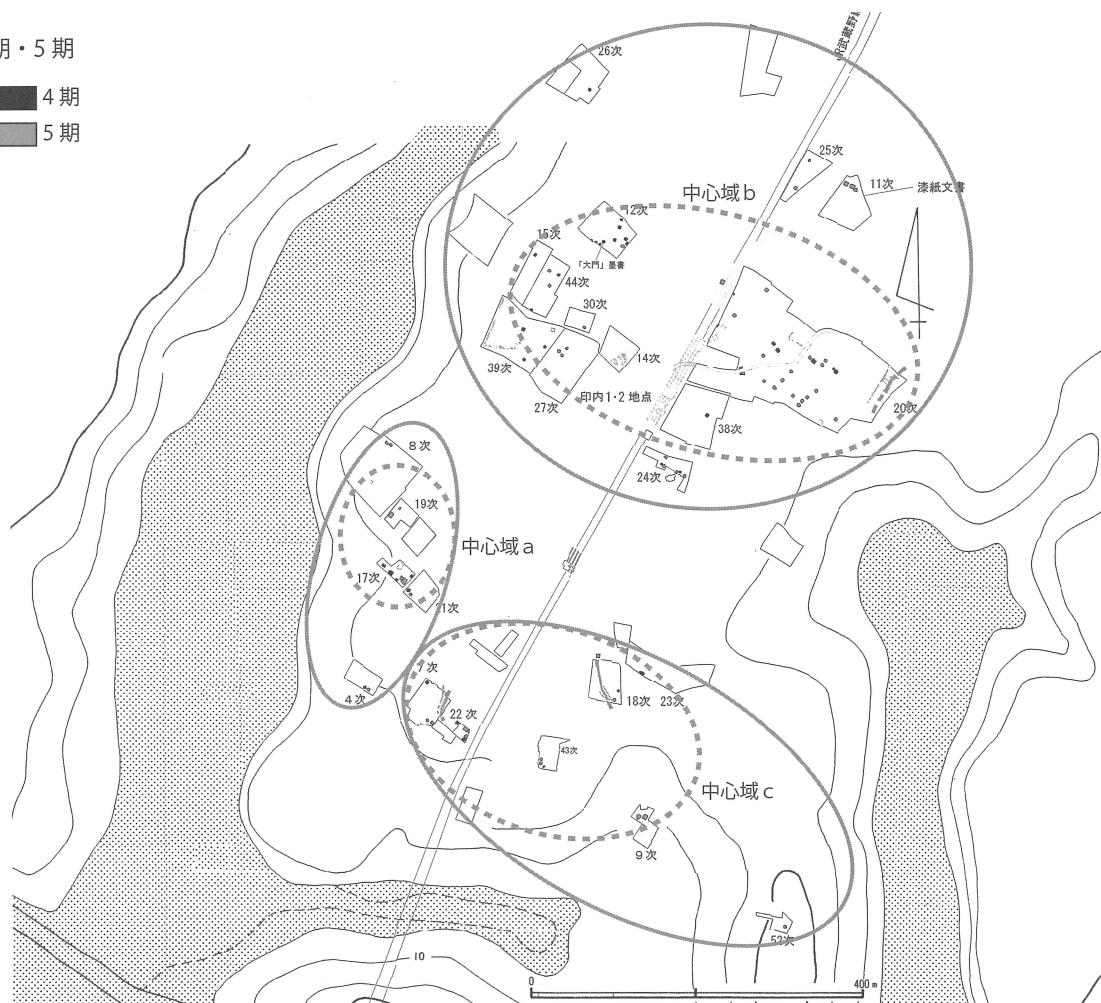


図 31-2 印内台遺跡群の遺構変遷図 (2)

4期・5期

■ 4期
■ 5期



6a期・6b期

■ 6a期
■ 6b期



図 31-3 印内台遺跡群の遺構変遷図 (3)